

奈良女子大学の「奈良」にかかわる研究発表会

3月23日に卒業研究等発表会を、もちいどの商店街にあるもちいどのプラザで行いました。奈良女子大学では、毎年たくさんの卒業研究、修士論文が書かれており、その中には奈良に関連する研究がたくさんあります。そのような研究を市民に発表し、ご意見を伺おうとしたのがこの発表会です。この事業は、生活環境学部の現代GPだけで取り組むのではなく、文学部のなら学プロジェクトと共催で行いました。

当日は、現代GP代表上野生活環境学部長の挨拶でスタートしました。発表した学生は15人、大学院生は7人です。学生は5分発表+2分質疑、大学院生10分発表+2分質疑で進めました。当初予定したより多くの発表者が集まり、当日は1時から5時まで、途中15分程度休憩しただけでやや強行軍でがんばりました。最後に、増井生活環境学部教授、寺岡文学部助教授、松森奈良もちいどのセンター街の各氏からコメントをいただき、奥村文学部部長の挨拶で閉会としました。最後まで熱心に議論が続き、参加者からは是非来年も、という声が聞かれました。終了後、同じ会場で懇親会を持ち、卒業研究のこと、奈良のこと、今後の事業について、大いに議論が盛り上がりました。

発表したテーマをいくつか紹介しておきます。

「『ごせまち』に残る格子」(生活環境学部・卒業論文)

「日本史における玉について」(文学部・卒業論文)

「上部が覆われている空間の犯罪発生状況と不安感および視環境改善に関する検討」(生活環境学部・卒業論文)

「奈良における高齢者の住まいの温熱環境」(生活環境学部・卒業論文)

「JR奈良駅連続立体交差事業にともなう高架都市地盤計画」(生活環境学部・卒業設計)

「正倉院文様の現代衣服への応用に関する基礎的研究」(生活環境学部・修士論文)

「奈良県伝統野菜(ヤマトマナ)の栄養性・機能性に関する研究」(生活環境学部・修士論文)

「山岳宗教集落・洞川の観光地化」(文学部・修士論文)

参加者アンケートからの抜粋

「研究成果を地域に還元するよい企画だと思います」

「大変興味深くおもしろい研究が多かっただけに、質問の時間がもう少しほしかった」

「こういった会場、街の音が聞こえる発表会は初めての体験でした。出入りしやすく、アットホームな感じがとてもよかったです」

「市民に開かれた研究発表会で、発表テーマも多様で関心が持てた」

「奈良というキーワードを元に、様々な分野の研究を聞くことができ、よい機会となりました。また、地域の方もきておられ、そこから出てくる質疑もいろいろな視点のもので興味深かったです」

「一般の人にもわかりやすいアレンジが必要かもしれない」



研究発表



模型展示の説明